

## 令和7年度（2025年度）第2回東海市環境審議会会議録

### 1 会議名

令和7年度（2025年度）第2回東海市環境審議会

### 2 日時

令和8年（2026年）1月30日（金）午後2時から午後2時45分まで

### 3 場所

東海市役所 501会議室

### 4 出席者

#### (1) 環境審議会委員（14名）

原 理史、澤木 眞、平松 浩子、久野 辰男、大木 孝二、松本 先華、  
久野 兼幸、酒井 誠、佐藤 雅之、小野 久仁陸、三木 大輔、澤田 和  
孝、神野 妃代、武富 時満

#### (2) 事務局（7人）

河田環境経済部長、櫛田生活環境課長兼ゼロカーボン戦略室長、林リサイクル推進課長、井上生活環境課統括主任、野々部生活環境課統括主任、久野ゼロカーボン戦略室統括主任、福本生活環境課主任

### 5 委員欠席者（5名）

野畑 和夫、越智 亮、北村 秀行、松村 実、高下 秀一

### 6 公開・非公開の別

公開

### 7 傍聴者

なし

### 8 会議内容

#### (1) 第5次東海市ごみ処理基本計画の諮問について

環境経済部長より会長へ第5次東海市ごみ処理基本計画の策定について諮問した。

ア 事務局より説明【資料名：第5次東海市ごみ処理基本計画について】

イ 質疑応答

（委員）3Rとはどのような活動か。

（事務局）3Rは、新しく作ることを控えて、再使用や再生利用を進めて循環型社会を形成する目的で全国的に行なわれている活動であり、それらを意味する英語の、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の頭文字をとったものである。

(会長) 東海市ごみ処理基本計画は、市町村が策定を義務付けられた一般廃棄物を対象とした法定計画であり、その策定について審議会の意見を今後出していく。

## (2) 報告事項

### ア 令和7年度(2025年度)版環境基本計画年次報告書

#### ㊦ 事務局より説明

#### ㊧ 質疑応答

- ・(委員) 3ページ「めざすふるさとの姿」の評価で、進展できなかったこととして「降下ばいじんにより生活の支障を感じる市民の割合」を「悪化」と表現しているが、「増加」が正しい表現ではないか。

→(事務局) 本報告書は既に公表しているが、同じ指標を総合計画の施策評価等においても使用していることから、他の公表資料の表現を確認した上で、見直すかどうか考えることとしたい。

→(会長) 日本語としてはご指摘のとおりと思われるが、現在の表現でも読み取ることにはできるため、表現の見直しについては事務局に一任する。

- ・(委員) 16ページの関連データ「大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合(5年度アンケート結果:学区別・年齢別)」については、市民の感じ方を集計した結果ということによいか。

→(事務局) これは総合計画における市民アンケートとして、年に1回、市内在住者から無作為に2,000人程度を抽出して結果を集計したものである。

- ・(委員) そのアンケート調査の中で大気汚染状況の実態と比較できるデータがあると良いと思う。

→(事務局) 15ページで、「大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合」と「降下ばいじんの量」を対比することができる。「降下ばいじんにより、生活に支障を感じている人の割合」は、環境基本計画の指標としていないため資料2で対比することはできないが、総合計画のまちづくり報告書においてグラフとなった資料があるため、そちらを確認して対比することは可能である。

→(会長) 相関関係はあるか。

→(事務局) 降下ばいじんの測定を小学校区で行っているわけではないが、市の南西部地域の降下ばいじん量が多いことから、地域的に相関関

係があると考えられるが、年度ごとでは相関関係はあまりないと考え  
る。

→（会長）経年変化の分析は難しいが、地域的には相関関係があると考え  
られる。相関分析をするには、かなり精査して分析手法も考えなければ  
ならないため難しいが、地域的には傾向があるということで理解した。

イ 令和6年度（2024年度）版地球温暖化対策実行計画（区域施策編）年  
次報告書

（ア）次第名称の訂正

次第の年度に誤り（令和7年度（2025年度）→令和6年度（202  
4年度））があったため修正を依頼した。

（イ）質疑応答

・（会長）市の温室効果ガス排出量の削減目標の対象外としている特定  
事業所は、削減に向けた取組を頑張っていると感じているか。

→（事務局）年次報告書の策定に当たっては、主な特定事業所へのヒアリン  
グにより、温室効果ガス排出量の削減に向けた計画的な取組を把握してい  
るところであるが、各事業所ともに時代の流れを捉えつつ的確に取組を進  
められていると感じている。

(3) その他

ア 委員からの全体に係る意見など

・（委員）本日の資料ではないが、以前、配布された環境概況70ページに  
おいて、ため池のpHが高くなっている理由は。

→（事務局）高いアルカリ性の数値が出ているため池について、現地確認し  
たところ、藻が繁茂していたことから、藻が原因と考えている。藻による  
pHの上昇の原因としては、光合成により水中の酸素が増加し二酸化炭素  
が減少することがあり、これによるpHの上昇は特に問題ないことを文献  
等で確認している。

→（会長）水質の調査はどのように行っているか。

→（事務局）専門業者に委託して採水した水の分析を、ため池は年1回、河  
川は年4回行っている。

→（会長）日照による変動があるということであれば、平均的なpHが確認  
できるような調査をすることも検討してはどうか。

→（事務局）本市内のため池や河川は、法令等による水質分析の対象外とな  
っており、調査地点の見直しを含めて検討していく。

イ 次回の会議予定について事務局から説明した。